「キャンパス・ツアー」に参加しませんか？

教養部　化学教室　築　部　　浩

「地下にこんな物があったのか」・「環境を守るのにこんなに時間とお金がかかるのか」・「自分達の使った実験廃液がこんな風に処理されるのか」……学生達の驚きが，環境管理センター・合併処理施設・水質管理室とキャンパス中を駆けぬけて行く。昭和57年の秋から，教養部が化学実験のカリキュラムへの環境科学教育の導入を指向して行っている環境管理センター見学のためのキャンパス・ツアーの一場面です。

言うまでもなく大学においても日常社会と同様に環境汚染に対して厳しい管理体制が必要とされますが，一方では，環境汚染物質もまた重要な教育・研究用材料であり，「危険だから使わない」ではなく「いかにして安全に使うか」を，学生諸君に正しく伝えなければなりません。特に，一般教育を担当する教養部においては，自然科学系学生に対する基礎教育としてだけでなく，広く，文化系学生をも対象として含めた自然・社会・環境・人間を総合的に考える総合科学として，環境科学教育が重要な位置を占めるものと考えることができます。しかしながら，その具体的な方法論の開発はどの大学でも行われていないのが現実でしたが，幸い本教養部では，環境管理センター関連の諸先生方の御理解と御援助とを戴いて，「環境と人間と科学」・「大気科学」などの総合科目の充実とともに，化学実験の一環として上記の様な「キャンパス・ツアー」を行っています。環境管理センターを「管理」のためだけでなく「教育」のためにも活用しようとする試みです。

教養部化学実験を履修する年間延べ八百人の学生の中から，まず，医学部・歯学部二年次生約二百人を対象として，環境管理センター見学のための半日ツアーを計画・実施した。第一回目の見学会は二年前，環境管理センター高橋照男教授をはじめ工学部・薬学部・教養部一体となった先生方の熱い説明に，学生諸君が敏感に応答する楽しい場面が随所に見うけられた。これ以後，講義説明・教材・見学場所等の改善を行いながら，半年に一回ずつ，回を重ねてこの秋六回目を迎えようやく軌道に乗った感じです。医学部・歯学部学生をはじめとする非化学専攻の理系学生は将来多くの化学物質を日常的に取り扱うにも拘わらず，環境問題を化学的な観点から考える機会は，教養課程期間中に限られており，このような経験がある種のカルチャー・ショックを与えることが確かめられました。しかしながら，未だ「環境科学教育」と呼ぶには程遠く，学生諸君に法規制の厳しさを認識させ，それを守らせる事に重点を置いたいわば「しつけ」の域を出ていないのが現状です。一般教養として，何をどこまで教えるべきか，また教えられるか，と言った質的な面とともに，膨大な学生数をどうさばくか，と言った量的な面など当面する問題は大きいのですが，「何故，環境科学か？」を掘りおこしながら「環境科学教育」へと近ずける努力を続けたいと考えております。皆様からの御批判と御教示を戴ければ幸いです。